

[第32回学術集会 シンポジウム1]

ビジネスケアラーを支えるには

座長

青柳 道子 (札幌市立大学 看護学部)
川村 真澄 (JA北海道厚生連 札幌厚生病院)

シンポジスト

佐々木 稔 (経済産業省商務・サービスグループヘルスケア産業課 課長補佐)
木場 猛 (株式会社チェンジウェーブグループ CCO)
今野 好江 (社会医療法人禎心会道央在宅事業部訪問看護統括副部長)
星 伸子 (医療法人社団ポラリスこころと発達クリニックえるむの木 精神保健福祉士)

概要

医療的ケア児や要介護高齢者など、自宅で介護を必要とする人が増えている。そのような療養者を介護する家族の中には、仕事をしながら介護をするビジネスケアラーと呼ばれる人が増加傾向にある。ビジネスケアラー（ワーキングケアラー）の中には仕事と介護の両立に悩み、介護離職に至る人も多い。介護による労働総量や生産性の減少による経済的損失額は、2030年時点で約9兆円に迫ると推計されている。わが国では労働年齢人口の減少が続いており、ビジネスケアラー支援は急務の課題となっている。ビジネスケアラーが、仕事と介護を両立できるような支援を社会全体で考えていく必要があると考える。

シンポジウムでは、ビジネスケアラーがキャリアを中断することなく介護を続けていくために行われている支援とその課題を、行政、ビジネスケアラー支援を行っている企業、ケア提供者である看護師、ビジネスケアラー当事者の立場からそれぞれ話題提

供していただいた。

佐々木氏からは、これまで行政が行ってきたビジネスケアラー支援の取り組みに加えて、民間企業等によるサービスの強化についてお話していただいた。木場氏からは、ビジネスケアラーの相談業務を通して見えた、当事者が困っていることについて共有いただいた。今野氏からは、訪問看護師としてビジネスケアラー支援を行った具体的な事例と、ご自身のビジネスケアラーとしてのご経験から得たものを教えていただいた。星氏は、障害を持つお子さんを育てる中での、職場の人やお子さんのケア提供者との関わりについて語ってくださった。

ディスカッションでは、ビジネスケアラー支援の様々な取り組みを知って、互いに連携を図って行く必要性と、ビジネスケアラーとその周囲の人々との互いの寛容さの重要性を認識することができた。

貴重なご経験・実践を共有くださったシンポジストの皆様、ご参加いただいた皆様に感謝申し上げます。